

適当な思い付き短編集

Pyromane

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

作者Bの思い付きです

連載してほしいというものがあつたら連載してほしいとコメントしてください

希望が多いものでできそうなものは連載の方向で進めます

明久が主人公の作品が基本になります

短編は連載に変えた時に重要などころだけではなく、適当に2, 3話をピックアップして3000〜8000文字くらいで書いて出すようになります

目次

【短編】	デート・ア・ライブ	in	明久
(五河士道ポジ)	—————	—————	1
ワンナイト人狼	—————	—————	13

【短編】 デート・ア・ライブ in 明久（五河士道ポジ）

僕は五河明久、都立来禅高校の生徒で今年から2年生だよ。

・・・って僕は誰に向かって自己紹介してるんだろう？うくん、まあいいや。僕が突然 自己紹介を始めた理由は

琴里「すう・・・すう・・・zzz。おにーちゃん・・・もう食べられないよお・・・」
明久「なんでこうなったんだろう？」

今は午前5時で、起きて始業式に行く準備をするにも早い時間だから二度寝しようと思っただけ・・・。

明久「・・・まあいつか、おやすみくzzz」
そう言っただけは二度寝しちやっただ。そう、二度寝をしてみたのだ。

明久「ふあくよく寝た・・・？あれ？」

僕は起き上がって伸びをする前に何かを抱えている腕に違和感を覚えた。

ひと肌で柔らかい、今は春先だから少し薄い掛布団を作ったからこんな感触にはならないはずだし・・・。それに掛布団はちゃんとかぶってるし。

明久「僕は一体何を抱いてるんだ？」

そういつて抱いていたものを話して掛布団をめくった。

僕はめくってから少し後悔すると同時に心配した。

明久「何で琴里がこんなところに？それに僕が抱いてたのってまさか!?!というか琴里、大丈夫!?!」

琴里「キューー／／／」

琴里は顔を赤くして気絶したままで何の反応もない。

僕は目覚まし時計を見て、ちょうどいい時間だと思い、学校に行く準備を先に済ませて朝食を作るためキッチンに向かった。

少年調理中

明久「うん！我ながらいい出来だね！」

僕が作ったのは和食で、メニューは赤味噌7、白味噌3の割合で作った味噌汁、玄米ご飯、鮎の塩焼きと、キュウリや茄子の漬物など。

妹の琴里を起こしに行こうと思っていたんだけど朝食を作ってる間に起きて学校に行く準備も終わらせてたみたいだね。

明久「おはよう、琴里」

琴里「う、うん・・・おにーちゃん／＼」

熱があるのかももしれないなあ、心配だから一応熱を測っておくかな。

明久「琴里、ちよつと来て？」

琴里「何？おにーちゃん」

額がくつついてその時に軽くこつんという音がしたが琴里には熱がなく風邪を引いてるわけじゃないとわかった。

明久「琴里、体調が悪くなったら近くの人に行つて休ませてもらいなよ？僕は琴里のつらそうな顔は見たくないからね？」

琴里「う、うん。わかった！」

明久「よし！じゃあ朝ごはんにしようか！」

そしてご飯を食べた僕たちはニュースを見ていた。

明久「空間震も最近増えてきたねえ」

琴里「そうね・・・そろそろいい時期かしら・・・」(ボソツ

明久「琴里、何か言つた？」

琴里「え？なんでもないよ？おにーちゃん」

明久「そう？それならいいんだけど」

ニュースが終わってすぐ（7：30頃）に家を出て学校に向かって歩いていった。

明久「そうだ琴里、お昼何か食べたいものとかある？進級祝いってことで好きなものにするよ？」

琴里「じゃあおにーちゃん！DXプレートかおにーちゃんが作ったパエリアが食べた
い！」

うーん、どうするかなあ・・・。

明久「あ、そうだ！じゃあお昼にファミレスでご飯食べよう？夜にパエリア作ってあげるから」

琴里「わーい！やった！おにーちゃん大好きー！！」

そして僕は高校に、琴里は途中で会った友達と中学校へ向かった。

ハゲ「・・・であるからして大きな怪我をしたという報告もなく、犯罪もなかったというのはいいことだが、最近また増えてきている空間震には十分気を付けるように」

ハゲの長い話も終わって自分の教室である2―4に向かっていた僕だったのだが、不意に背後から声をかけられた。

「――五河明久」

明久「ほえ？」

僕はいきなり知らない声に自分の名前を呼ばれて変な声を出したが僕を呼んだ人は笑うこともなくそこに立っていた。

明久「君は？」

「おぼえてないの？」

明久「どこかであったことがあるなら悪いんだけどごめん、わからないかな？」

「そう」

僕は棒立ちのまま声をかけてきた女子が教室に入っていくのを見ていたが、5秒くらいして混乱が回復して、自分の席に着こうと思いい教室に入った。

明久「はあ、何だったんだろう・・・あの子」

「とうっ!」

明久「馬鹿の気配!」

「がふっ!?!」

そう言っただけ息をついていると脳裏に嫌な予感が走ったのと何となく感じた気配と聞こえてきた声に、思わずその方向に裏拳をかましちやっただけどまあいつか。

とりあえず殴り掛かってきた馬鹿がだれか確認しておこうかな。

明久「よつと、・・・やっぱり君か。殿町君」

殿町「何しやがる!?!この淫獣!」

明久「よし、もう一回今度は思いっきり殴ってやるから頭を出せ」

殿町「間違ったこと入ってねえよ!いつの間にか一と仲良くなりやがったんだ!?!」

明久「知らないよ、僕の反応を見て分かる通り僕は鳶一さんの名前すら今知ったんだから」

僕がそういうと周りからよかつたと言いたそうなため息が教室銃（鳶一さん、殿町君、僕は除く）から聞こえてきた。

・・・そんなに僕がかわいい子と付き合ってたよかつたって思うのかな。(・ω・)

そして殿町君はなんでこんなに面白い・・・じゃなかった、驚いたみたいな顔をしてるんだらう？

殿町「あの恋人にしたい女子ランキング・ベスト13で3位、家事がうまそうな女子ランキング・ベスト28で8位、結婚したい女子ランキング・ベスト67で3位、一途そうな女子ランキング・39で1位のあの鳶一折紙を知らないのか!？」

明久「知らん、それ以上になんでそんなランキングがあるのか、なんでそんな微妙な順位なのか？ 気になるんだけど」

殿町「それはな、ランキング主催者の女子がその順位だったんだよ」

明久「ということは男子のランキングもあるのかな？」

殿町「ああ、あるぜ？ 気になるか？」

明久「まあ気になるっていえば気になるけど・・・」

殿町「じゃあとりあえずお前のランキングを教えてやるよ」

明久「ああ、うん」

殿町「女装が似合いそうな男子ランキング・ベスト10で1位、優しそうな男子ランキング・ベスト358で1位、恋人にしたい男子ランキング・ベスト358で1位、家

事ができそうな男子ランキング・ベスト10で1位、こんな男子の後輩がいたらランキング・ベスト358で1位、腐女子が選んだ校内ベストカップルで俺と2位だ」

明久「聞かなかつたらよかつたって思うランキングがいくつかあつたけど僕がそんなに人気なわけないじゃん」

殿町「いや、10人で実際に集計して何度も見直したりしたんだが間違いなかつた。その証拠にお前と鳶一が付き合つてないと聞いてほつとした女子が結構いただろ？」

明久「僕はまだ誰とも付き合つたことはないよ、ちなみに腐女子が僕で妄想するのはいいけど表にまで出さないようにしてほしいかな」

そのあと女子がうれしそうな顔をしてたり、僕が殿町を何回か殴つたりしてるうちにHRの時間になり、小柄な女の子みたいな先生、岡峰珠恵、通称：タマちゃんが教室に入ってきた。

それと同時に教室中からタマちゃんだ！来た！タマちゃんキタ！これで勝つる!!という風な興奮した声が聞こえたがタマちゃんに和んでいた。

タマ「みなさあんおはよおございまあす」

タマちゃんのあいさつに和んでいると、隣からものすごい視線を感じた。何があつた

のかとそちらを見ると鳶一さんに凝視されていた。

明久「何か用かな？ 鳶一さん」

鳶一「なんでもない」

明久「そう？ 体調とか悪かったらちゃんとか誰かに言っただけ？」

鳶一「わかってる」

そう言っただけで鳶一さんは会話をやめてタマちゃんを見ながら話を聞いた。

そしてHRも終わって軽く掃除や小テストをして、それが終わって放課後になったため、妹の琴里との約束を守るために、ファミレスに向かうとしたら殿町君に呼び止められた。

殿町「おーい、五河」

明久「何さ、そんなおーい茶みたいな呼び方をして」

殿町「いやさ？ 昼飯一緒にどっかで食わねえか？」

明久「悪いけどパス、もう先約があるんだよ」

殿町「もしかして・・・女か？」

その会話を聞いていた婦女子は全員が殿×アキじゃなかった?!とか明久君には彼女いないって聞いたのに!とか叫んでいたが無視して殿町君に言った。

明久「まあ、女って言ったら女だけどさ?妹の琴里と一緒に進級祝いで○♪ファミレスで食べることになってるから」

殿町「じゃあさ、俺もそこに行つていいか？」

明久「うくん・・・大丈夫だと思っただけ。なんで？」

殿町「琴理ちゃんつて中2だろ？」

明久「そうだね」

殿町「彼氏いんのか？」

明久「待て、なんでそうなった」

殿町「3つくらい年上の男つてどうなのかってな」

明久「前言撤回。君だけは何があつても絶対に連れて行かないよ」

殿町「そんな!?!お義兄様！」

明久「誰がお義兄様だ、君が泣いて謝つても殴り続けるよ？」

殿町「それは勘弁してくれ。まあ、兄弟団壘を突つついても面白くなることはないだろうからな」

それだけ言つて僕は殿町君と別れて待ち合わせ場所のファミレスに向かうとした。

ウーーーーー！ウーーーーー！ウーーーーー！ウーーーーー！

それと同時に鳴り響いた警報。

明久「こ、これは！」

殿町「空間震警報か……」

タマちゃん「落ち着いてー！学校の地下にあるシエルターまで迅速に移動してください！押しさない！駆けない！しやれこうべですよー!!」

明久「自分より焦つてる人とかを見ると安心するとかって聞いたことあつたけど本当なんだなあ……」

そして僕は落ち着いて避難を始めたけど、ふと琴里のことが気になつて琴里の携帯のGPS情報を見てみた。

明久「なんでさ!?!」

琴里の現在位置を確認した僕は避難するのをやめて約束のファミレスに向かうため

に来た道を全力疾走で戻り始めた。

殿町「どうした五河!？」

明久「ごめん！行かなきゃいけないとこができた!!」

僕はすれ違う人みんなに驚かれたが、かまわず走り続けた。
殿町君にはあとでメールでも送ればいいかな？

ワンナイト人狼

「配役されました、役職を持っている方は役職行動を行ってください」

・・・どうしたものか。私の役職は怪盗ですか。村か占い師と交換できれば楽にできるんですがね・・・。楽しいっていう意味では狂人と交換できればいいのですが。

「・・・霊夢と交換して村人でしたか」

これなら占い師に見られていたとしても潜伏した方がいいでしょうか・・・。いえ、むしろ人外位置が分かるか吊ってはいけない位置を判断できるまでは潜伏を続けましょう。それで吊られてしまったら自分が未熟だっただけですし、この作戦で行きましよう。

「朝になりました。議論を開始してください」

『おはようございます』

「怪盗がいたら出てくれ」

『・・・』

怪盗乗っ取りも発生しないなら占い師を見た占い師はいないみたいですね。第一関門と言えばいいかはわかりませんが即COしなければならぬ状況ではなくなりましてね。

「怪盗はいないみたいですね。占い師はいらっしゃいますか？」

「私が占い師です」

「誰が占い師だって？」

「リグル占い師です」

「リグルが霊夢さんを占って村人でした」

占い師と同じところと交換していたのですか……。猶更すぐにCOしてはいけない状況になってしまいましたね。確実に人外を見つけなければ私が吊られる可能性が高いですね。

「リグルは人外のCOを待つてたのか相方が上を見ているのかを確認するためにCOを少し遅くしたんだろうねー」

「それはお前の意見つてことでいいのか?こいし」

「んー・・・意見というよりは促しだね」

「・・・?意見じゃないのか?」

「意見になると黒く見られちゃうでしょ」

「まあ自分は違うと思うけどとか言わなきゃ黒くもならないんじゃないか?」

「・・・?どうしてこいしさんは黒くなるなどと言ったのでしょうか。狂人だったら自分を人狼に見せたい動きにも見えますが村人で吊られたくない動きにも見えますし後で自分の意見を言うタイミングで精査をつけましょうか。」

「それじゃあ魔理沙さんから行きますか」

「私からか・・・。今までの流れでは変なところなかったかな。今の時点ではそれくらいしか言えないぜ」

「じゃあ次フラン」

「こいしちゃんが何か見えてるように見えたかな・・・。そこを村置きしてたんだっけ?」

なんて言ってたんだっけ魔理沙」

「私は村置きなんてしてないぜ」

「誰も村置きなんてしてないよね？」

この時点では私より前に役職がいたとしても占い師での潜伏はなさそうですね。あとするのなら人狼か狂人。ですが私より先に意見を言う人がもう1人残っていることを考えるとまだ迂闊に判断はできませんね。後ろに人狼が2人、もしくは上に人狼が1枚と後ろに1枚ということも考えられる以上思考を狭めることはしてはいけませんね。

「じゃあ次はクラウンピース」

「一番初めのこいしと魔理沙の掛け合いを見た感じだと同陣営だとやらないでしょ。こいしを村で置いたら魔理沙は人狼だね。逆もしかり」

なぜここでこいしさんと魔理沙の掛け合いから同陣営ではやらないという結論が出るのでしょうか・・・？狂人と人狼のやり取りの可能性もありますし、村人同士の可能性もあります。その場合クラウンピースの役職が人外になるので自分が村だという主張を第一にしていると考えれば狂人と人狼間、相方人狼間でのやり取りでなければ確か

に同陣営ではないですが・・・。

「じゃあ次は咲夜だぜ」

「はい、今までの意見を聞いて思ったのは、人外が間違いなく私より前に意見を出した3人の中に人外が1はいるでしょう。2いるかもしれないかもしれませんがその場合は狂人がいると思います。ですが怪盗が役職交換で人外になったわけではないでしょう」

「次は大妖精、意見を出してくれ」

「大妖精発言します。前の4人が発言した中で、魔理沙さんとフランちゃんの発言だけだと精査は付きませぬね・・・。咲夜さんは欠けている役職もわかってないのに人外数を決め打っているのはなぜだろうと思いました。クラウンピースちゃんは村と人狼とまではなく村と人外と言っていると成長を感じました」

「今の良いねー、印象だけで大妖精外したいなあ。真面目に考察するなら大妖精の単体狼はあると思うよ。魔理沙―クラウンピースちゃん、フランちゃん―咲夜さんのラインでの2人狼はないと思うなあ・・・。どっちかに確実に人狼は1人いると思うからそこから吊つちやえばいいんじゃないかな」

この感じだといいしさんと大妖精のラインでの2人狼はなさそうですね。こいしき

んが大妖精を吊人だと考えて彼女を吊らないように動いてると考えられますかね・・・？
村人だから勝利を目指して？それとも人狼だから狂人の可能性があるけど吊人だったら
勝利が確実になくなってしまうからかしら？でもその場合大妖精の単体狼が有り得
るといふ考えを持っている以上狂人・・・？それなら私までの発言者のラインを考えて
るのはご主人様を見つけてPPになりそうなきにはご主人様じゃない方に投票する
ためかしら？

「じゃあ次は霊夢、意見を出してくれ」

「私はこいしを外しておきたいわね。こいしが狼なら、占い師のラインを真で見つ
グ
レー全員に促してたのはかなりきつい動きだと思わ。それに大妖精も印象で吊り位
置じゃないと思うから外して良さそうね。残りの4人の中で一番最初の魔理沙とこい
しのやり取りだけが狼ならやらなくてもいいと思うから魔理沙も外して良さそうね」

「じゃあ喋っておきますか・・・。大妖精はこいしちゃんとの相方人狼になるから考えな
くてもいいと思います。単体だったら度胸がすごいですね。こいしちゃんはまだ2人
狼の片割れもありますが薄いと思いますのでやはり前半の4人に注目していきたいで
すね」

このままだと一番吊られそうなのは私かクラウンピースかしら．．．？こいしさんを外す動きが出ていて以上大妖精も吊り位置には持つていけないかしら。まあ彼女は十中八九白人外位置だから気にしなくてもいいかしらね。暫定占い師のリグルと確定村人の霊夢の意見を考えると吊りたくない、もしくは吊らないと明確に示している位置は

霊夢：魔理沙・こいし

リグル：大妖精・こいし

というところかしら．．．。私としては最初の促しの時点から何かが見えてるような気がするから狂人でなければ元人狼か潜伏占い師だとは思いますが．．．。潜伏占いの師ならすでに出るタイミングとしては遅すぎますし、狂人で大妖精がご主人様だと思っ

て自分が悪目立ちするためというのもなさそうです。人狼だと一番強いのはここでしょうが。

「クラウンピースに聞きたいんだが、私とこいしが別陣営だつて言つた意図を聞きたいんだ」

「仮に人狼が一番初めにあんな発言しておいてわざわざあんな見えてる位置に繋ぎに行かないでしょ。それは違うでしょ相方さーんなんて言わないでしょ？別にこの意見を取つて私を狂人と置いてもいいけど私は狂人じゃないよ」

「あーなるほどやつと理解した。そういうことだったのか!」

「それに対してあげ足取り言って良い?」

「狂人以外全部あるってことでしょ? わかってるわよそんなこと」

「違うよ? 狂人じゃないってことは人外の中でも人狼なんだね? ってことだよ」

「え? それって前提としてクラウンピースが自分が村人だからの考察だと思ったんだが」

「もう1個上げ足取りするけど、この状況でこいしちゃんがクラウンピースを人狼だつて言つてたけど狂人を否定しただけで吊人の可能性があるのにそれが外れたってことはこいしちゃんも吊人なんじゃない?」

「どっちにしろこいしは吊り位置じゃないでしょ」

「この発言してる辺り大妖精は吊られに来てるよね」

「伸ばしていい? クラウンピースちゃんと睨夜の2択でいいと思うよ」

「その発言したのは誰?」

「フランだよ。私視点私と睨夜の2択でもいいんだけど睨夜の単体の可能性もあるからクラウンピースちゃんも入れておきたいってだけなの」

「入れておきたいってだけで入れて欲しくはないなあ・・・」

「私視点は2枚人狼がいるなら100%睨夜だと思っただけだね」

これはまずいかもしれませんがね。妹様に人狼の可能性を疑われています。議論時間ももう残り3分ほどですしこれ以上伏せていても得はないでしょうね。私視点の人外位置も全部見えたことですし、そろそろそれらしい理論を以って説得をしなければ敗北は必至でしょう。人狼の可能性が一番高いクラウンピースとこいしさんの2人を吊に持っていけるような怪盗COをしなければ……。

「それならメイド長さんでいいじゃない?」

「2枚いるならって言ったでしょ?」

「え……? 私の単体人狼の可能性があるってこと?」

「うん、クラウンピースちゃんにならあるんじゃないかって思う」

「それなら大妖精ちゃんの方があるんじゃない?」

「そこまで行くとなくはないって感じになるからな」

「なんでさつき吊られに来るって言ってたのに何で急に私にヘイトを飛ばしてきたのかな?」

「そういう揚げ足取りやめてよー!」

「私も発言をしますね」

『どうぞ』

「リグルが偽であつても霊夢は村です。それと今までの意見を私なりにまとめ思つたことを言います。大妖精は確実に人外です。そして欠けている2枚の役職の内1枚は占い師確定として、もう片方が村だったならこいしさんの人狼はあります。その時の相手はクラウンピースでしょう。というのも私は怪盗で霊夢の村と交換しています」

「あーなるほどね・・・」

「人外の方がボロを出してくれないかとずっと潜伏していました」

「えー！わかんないよー!!？」

「うわー信用あるなーそれ」

「大妖精が吊られに来てる吊人見せの人狼だったら嫌だぜー？」

「発言貰うわよ。咲夜、あんたはどこを吊りたいの？」

「村人が占い師を信用するならリグルについていきます。逆に占い師を信用しないのならこいしさんを吊りに行きます」

「占い師はどこ指定するの？」

「クラウンピースちゃん」

「え・・・なんて言つた?!」

「時間です、プレイヤーは全員喋らず投票をしてください」